

【Kero Fin】

説明



解説

■ 神殿

嵐の神殿。小神。

■ 称号

“ 山の母 ” 【Mother of Mountains】

■ 概略

標高 12,000m にもなる冬の峰、ケロ・フィン山が女神自身である。

母の神、出産を助ける神として広く信仰されていたが、現在では多くの土地でその役割を他のカルトが引き継いでいる。ドラゴン・パスは古代ではケロフィネラと呼ばれ、ドラゴニユートを含めドラゴン・パスの住人すべてが彼女の統治権を、彼女こそがドラゴン・パスの女神であることを認めており、現在でもドラゴン・パス王とならんとする者は、その前に彼女の祝福を得なくてはならない。

■ 異界

ケロ・フィン山は神界にも存在しており、それ自身が彼女である。

組織

■ 聖日

誕生の日（海の季、混乱の週、凍の日）

一年で最初の日

■大聖日

王の日（火の季、安定の週、風の日）

ドラゴン・パス王に統治権が譲られる日

業績

・（その神のなした業績を一行で書き表そう。その業績は単独で記事にしよう）

近親

両親

父親は造り手。

母親は大地の母。

子

ウーマスとの間にオーランスをなす。

フララーとの間にインキンをなす。

“野の姫” ヴェルハラ、クイヴィン、“白き姫” イノーラをなす。

参考文献

- ・『グローランサ年代記』 p.72
- ・『Strom Tribe』 p.225